

事業名 こどものまち 365

〈拠点〉 緑児童館

対 象 乳幼児～大人

事業内容

「緑児童館はまちである」

児童館を空間、子どもたちを市民として、児童館を「まち」として運営していきます。子どもたち自身が主体となり、子どもたちが自主企画をしたり、行事やクラブ活動・施設管理を含めた児童館運営への参画ができる環境を整えます。また、児童館でしか使えない通貨を導入し、児童館で仕事をすることで通貨を稼いだり、子どもたちが企画するイベントやプログラムのための材料費として通貨を使えるようにするなど、子どもたちの出来ることの幅を広げます。

【「こどものまち」としての3本柱】

◆自主的な遊び場の提供

子どもたちの主体性を重視し、できるだけルールや大人の介入なく、自由に過ごせる場を提供します。

◆子ども企画

「みんなを巻き込む」という条件のもと、バスケットボール大会や映画会などのイベントをやりたい子どもが自由に企画し、自分たちで準備・広報・運営をおこないます。

◆子ども会議

「駐輪場がぐちゃぐちゃで困る」「利用カードを書くのがめんどくさい」といった、子どもたちから挙がる児童館の運営やルールへの提案について、定期的に話し合います。28年度は、児童館で買ってほしいものや整えてほしい設備などの要望も多く挙がったため、1年間で2万円の「こども予算」を設け、会議などで子どもたちと使い道について話し合っています。

事業のポイント

- ・緑児童館は子どもたちの居場所・コミュニティである。
- ・やりたいことをやってみることができる。
- ・主体的に緑児童館の運営に関わる。

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・自分の思いや気持ちを表現する力
- ・多様性を尊重する力
- ・多様な人とつながり協働する力
- ・より良い社会を思い描く力
- ・計画や目標を立て、目標達成までのプロセスを管理する力
- ・社会の一員として、社会に関わる力

エピソード

「こどもたちとまちづくり」

駐輪場のペンキ塗りをしたり、利用カードの新しいしくみを考えたりと、今まで毎月1度子どもたちと児童館の運営について考えてきた子どもブチ会議。どうも「会議」という響きのせいもあるのか、なかなか人が集まらないのが悩みでした。決して興味が無いわけではなく、日々の中で直接意見を募るとたくさんの声が挙がるのです。これはもったいない！と思って始めたのが、会議の参加者に給料を支払う制度。お給料目当ての子だって、普段から児童館を利用している立派な市民。ひとたび会議に参加すれば、それぞれに思っていることや意見を出してくれました。

お給料制度導入後初めて行った大会議では、「新しいバスケットボールがほしい!」「エレベーターを付けてほしい!」「トランポリンがほしい!」「壁をきれいに塗ってほしい!」など、児童館に対するたくさんのアイデアが生まれました。素敵なアイデアと実際問題の予算の狭間で悩まされてきた職員でしたが、開き直って最後まで子どもに決めてもらおう!と1年間で2万円の「子ども予算」を設立しました。

アイデアを実行するためにかかる費用を調べあげ、みんなに投票するようお願いすると、子どもたちも真剣に考える。「2万円に収まらないものは貯金して買いたい!」「自分が児童館に来れなくなった頃を買うことになっても、他の子が楽しいからいいんだ~」なんて声もちらほら。「体育館の天井をドームみたいに開閉式にしたい!」と、毎年貯金しても何世紀かかかりそうな夢を追いかける子もいます。

子どもたちと進める会議はのんびりペース、にぎやかすぎて紛糾することもしばしばです。そのなかで、自分の意見が受け止められた、実際に自分たちの声で児童館が変わったという経験を積んでいくことが社会へ参画することの第一歩です。

「続々生まれる!子ども企画」

「やりたいことをやってみよう、みんなを巻き込んでみよう!」と今まで行ってきた子ども企画。子ども大会議で出た意見から、やりたいという子が名乗りを挙げて「おやつクラブ」が誕生しました。参加したい子からは児童館通貨の参加費を集め、当日メニュー決めから買い出し、調理ぜんぶ子どもたちだけで相談しながら進めていきます。毎回到ぎやかすぎるくらいにぎやかなメンバーが集まり、ケンカが起きたり、「全然言うこと聞いてくれない!!」と愚痴をこぼしに来たり…やりたいことをやるってなかなか大変なことなんですね。自分だけでは出来ない。でも自分の思い描くようにやりたい。でも全然思い通りには動いてくれない…。あまりに毎回大変そうなので、今度こそ活動を辞めるかなと思うのですが、なかなか諦めずに踏ん張っています。役割分担するタイミングや、誘う子を誰にするか考えてみたり、初めての子が優先!とルールをつくってみたりと試行錯誤を繰り返しています。人一倍洗い物をしたり、「あ~考えるのめんどくさいな~。」とこぼしながらも、やりたいことができることの楽しさ・嬉しさがあるようです。